

伊川谷高生らが外国人とシンポ 低価格衣料テーマに議論



西 区

高校生が外国人と意見を交わす「国際理解シンポジウム」が、伊川谷高校(西区伊川谷町長坂)であった。ウクライナ、中国、ガーナ、カナダの4カ国の出身者を迎え、衣料品を低価格で大量販売するファストファッションをテーマに議論した。身近な人や話題から、異国の文化や社会課題について考えてもらおうと企画し2回目。今回は、2025年度に統合が予定されている伊川谷北高校との交流も兼ね、同校の生徒会役員も招いた。

ファストファッションについて、各国のお国柄も交えて議論した「国際理解シンポジウム」は、西区伊川谷町長坂、伊川谷高校

パネリストは両校の生徒会長に加え中国、ガーナ出身の留学生、ウクライナ、カナダ出身の大学教員が務めた。討議の様子は、各教室にビデオ通話でつないで公開した。

議論はそれぞれの国の服の消費について、環境問題を念頭に進んだ。ウクライナやガーナでは古着活用が

根付き、中国ではアプリを介したりサイクルが主流になっていると紹介された。一方でファストファッションは、雇用創出につながるとの意見も上がった。

伊川谷北高2年の重松絆愛さん(17)は「着ない服は親戚に渡すなどして、ゴミが出ないようにしたい」。伊川谷高2年の地下真咲さん(16)は「安い服を次々と買うのではなく、良い物を長く使うように認識を改めたい」と話していた。

(大橋凜太郎)